

How's Life in Japan?

日本の幸福度



2014年8月



「OECD よりよい暮らしイニシアチブ(OECD Better Life Initiative)」は、人々の生活の質を形成する重要な生活の諸側面に焦点を当てたもので、2011年に始まりました。このイニシアチブは定期的に更新される幸福指標とその分析からなっており、**How's Life?**と題する報告書と **Better Life Index** というインタラクティブなウェブアプリで公表されます。その他にもいくつもの方法論に関するプロジェクトと研究プロジェクトが含まれており、幸福度の傾向とその要因となっているものをよりよく理解するために、情報基盤を改良しています。

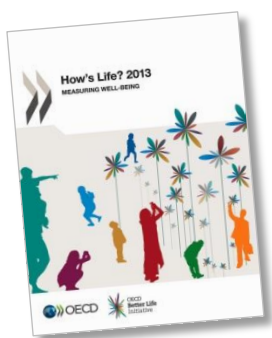
よりよい暮らしイニシアチブは、

- 生活の質を改善するための政策策定に情報を提供します。
- 政策を人々の政策に結びつけます。
- 必要とされる政策方途を生み出します。
- 人々に自分の指標を作らせ、それを共有することで、市民参加を促します。
- 政策策定に対する人々の理解を向上させることで、人々に力を与えます。

この冊子は **How's Life?報告書**から日本に関する部分を取り出したもので (3-5 ページ)、また日本の **Better Life Index** 利用者が幸福について優先すべきと考えている事柄を示しています (6-7 ページ)。



HOW'S LIFE?



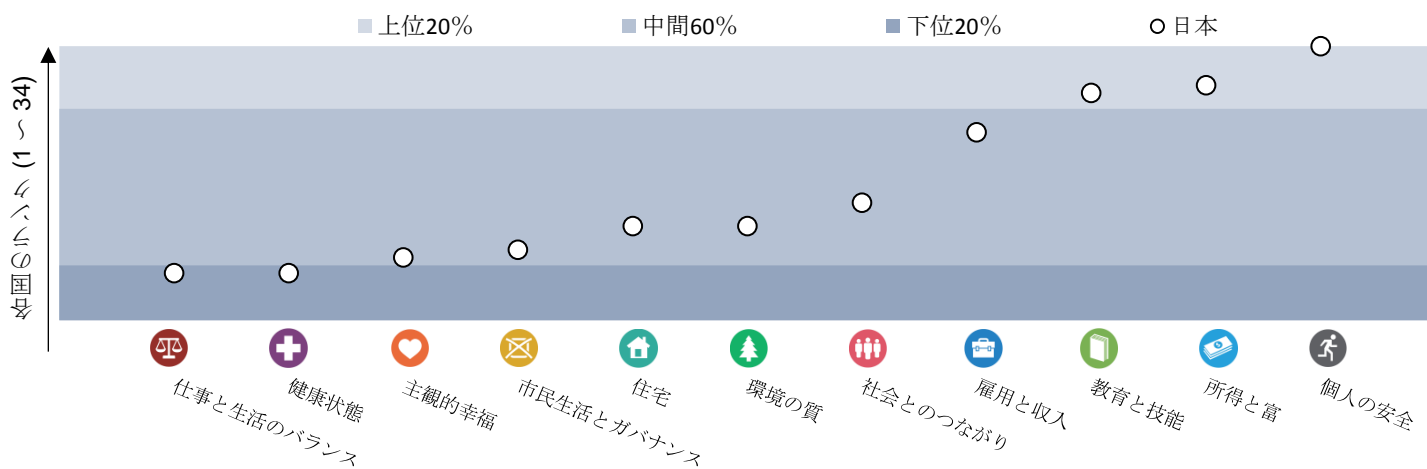
How's Life?は OECD 加盟諸国および主要非加盟国における幸福(well-being)の全体像を、国際比較可能な一連の幸福度指標を総合することで明らかにするもので、2年に一度発表される。人々の経済状態と生活の質を、以下の11項目で調べている。(1)所得と財産、(2)雇用と収入、(3)住宅、(4)健康状態、(5)仕事と生活のバランス、(6)教育と技能、(7)社会とのつながり、(8)市民参加と統治、(9)環境の質、(10)安全、(11)主観的幸福。

ここでは、日本についての分析結果を一連の幸福度指標とHow's Life?報告書の分析に基づいて示している。

日本の幸福度 2014年

日本は、OECD が良い生活に不可欠と考える上記11項目の多くにおいて、他の OECD 諸国と比較して良い結果を出している。安全面では、日本はトップに位置している。所得と富、教育と技能、雇用と収入、社会とのつながりの諸項目で OECD 平均を上回っているが、環境の質、住宅、市民参加、主観的幸福、仕事と生活のバランス、健康状態では平均を下回っている。

図1 - 日本を他国と比較すると？
OECD 加盟諸国と比較した日本の幸福度、2014年



経済危機の時の幸福度

こうした背景の下、How's Life?は、**平均的な日本人世帯**が受けた経済危機の影響は緩やかであったことを明らかにしている。他の OECD 諸国では、その影響が特に所得、雇用、生活満足度、市民参加において顕著に見られた。

2007年から2011年の間に、日本では実質**家計可処分所得**が4%程度漸増したが、ユーロ圏では毎年平均1%以上も落ち込んでおり、特に2011年にはその減少の度合いが最も大きかった。しかし、市場の所得格差（税引き・給付前）は2007年から2010年の間に3%拡大しており、これはOECD平均の1.2%を上回っている。

OECD 諸国で特に金融危機の影響が深刻だった国々では、経済危機が人々の生活に最も大きく影響したのは、雇用の減少と労働市場状況が悪化したためであった。しかし日本では、**雇用率**も長期失業率も2007年から2012年の間安定していた。

OECD 諸国全体では、雇用条件の悪化が生活満足度に大きな影響を与えた。日本では、雇用条件は悪化しなかったが、生活満足度は下がった（日本人で自分の生活に非常に満足していると回答した人の割合は2007年は49%だったが、2012年は43%だった）。

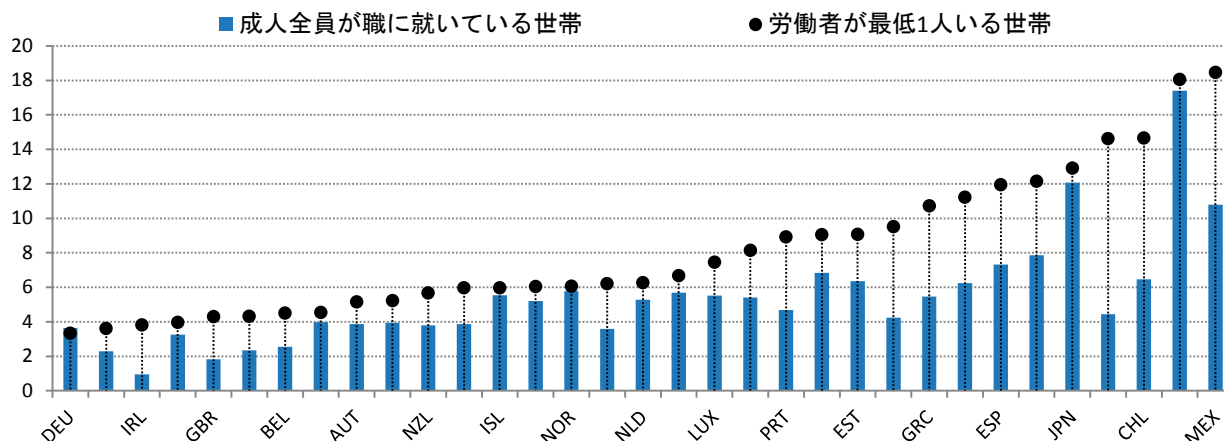
政治制度と民主主義に対する**人々の信頼**も、経済危機の最中に落ち込んだ。政府を信頼していると答えた**日本人**の割合は、2007年の24%から2012年には17%に下落しており、OECD 諸国中でも最も低い割合である。

同期間に、経済危機の影響が最も深刻だった国々では、**社会的団結と社会との関わり**の新しいあり方が生まれた。しかし**日本**ではその反対の傾向が主流だったようである。誰かを助けた、またはボランティア活動に従事したと答えた人の割合が、2007年から2011年にかけて、それぞれ3ポイント、4ポイント減少した。

雇用の質と幸福度

幸福度の観点から重要なのは、質の良い仕事を持つことである。雇用の質には多くの要素が含まれているが、その1つが適切な生活水準を確保できる有給の仕事だということである。職に就いていながら貧困であるということ（就労貧困）は、雇用不安の別の形態で（例えば、正規雇用者の短時間労働や時間給、低給与の仕事と失業状態が頻繁に続くこと）、それが雇用の質に影響を及ぼす。2010年に、**労働者が最低1人いる世帯で暮らす日本人の13%が就労貧困であったのに対して、成人全員が職に就いている世帯で暮らす人でも12%が貧困状態にあった**。いずれもOECD平均を上回っている。就労貧困対策は、多くの国々で、特に経済危機においては政策の中心課題である。

図2 - 日本における雇用の質と就労貧困、2010年
家計可処分所得の中央値の50%を閾値とした場合の貧困率



男女の幸福度の違い

男女の幸福度の格差は、特に男性に優位であったが、日本を含むほとんどの OECD 諸国で縮まってきている。しかし、**日本**は男女の賃金格差が、OECD 全体で最も大きい国の 1 つである。**日本人男性**と比較して**女性**は有給の職業に就いている割合が低く、政治家も少なく、家事には多くの時間を費やし、夜外出する際に不安を感じている傾向が男性より強い。また、日本人女性の相当数が、夫婦間暴力を経験したことがあると報告している。

| | 日本における男性と女性の実績 | | OECD 平均 | |
|----------------------|----------------|------|---------|------|
| | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 |
| 生涯を通じた状態 | | | | |
| + 健康状態 | | | | |
| 平均寿命（年） | 86 | 79 | 83 | 77 |
| 健康状態が良い／非常に良い人の割合 | 29% | 32% | 67% | 72% |
| 📖 教育と技能 | | | | |
| 高等教育修了（全分野） | 42% | 58% | 58% | 42% |
| 有給・無給の仕事 | | | | |
| 👛 雇用と収入 | | | | |
| 雇用率（高等教育修了者） | 67% | 92% | 79% | 88% |
| 男女間の賃金格差 | - | +27% | - | +16% |
| 一人暮らし世帯の貧困率 | - | - | 37% | 30% |
| ⚖️ 仕事と生活のバランス | | | | |
| 家事に従事する時間数（1 週間当たり） | 22 | 2 | 32 | 21 |
| 社会生活 | | | | |
| 🗳️ 市民生活とガバナンス | | | | |
| 国会における男女の割合 | 8% | 92% | 27% | 73% |
| 👤 個人の安全 | | | | |
| 夫婦間暴力を経験した女性の割合 | 15% | - | - | - |
| 夜外を歩くときに安全と感じている人の割合 | 69% | 85% | 61% | 79% |
| ❤️ 主観的幸福 | | | | |
| 生活満足度の 10 段階評価 | 6.2 | 5.8 | 6.7 | 6.6 |



よりよい暮らし指標

「よりよい暮らし指標」は、双方向性のあるウェブアプリで、*How's Life?* 報告書で調査した一連の幸福度指標に基づいて人々が OECD 諸国の幸福度を比較できる。ユーザーは、以下に示す 11 項目それぞれの重要度を自分で選び、各国の実績を自分の生活で重視するものと比較して見ることができる。

幸福を測る11の項目

-  住宅
-  所得
-  雇用
-  共同体との関わり
-  教育
-  環境
-  市民参加
-  健康
-  生活満足度
-  安全性
-  仕事と生活のバランス



花は国を、花びらはそれぞれの項目を表す

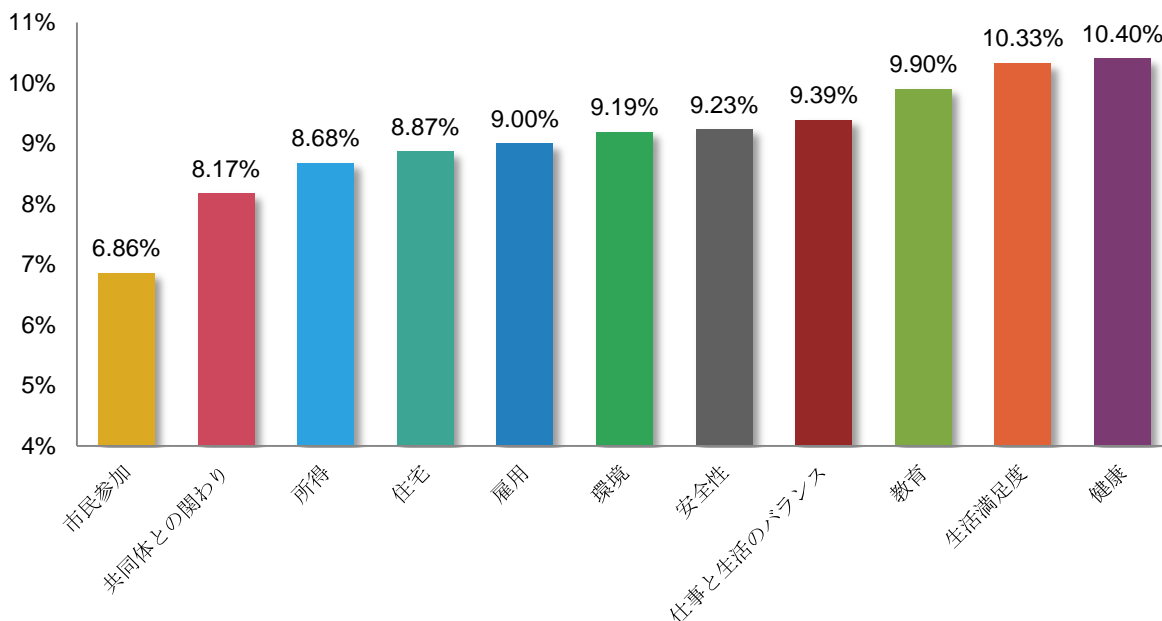
自身の考える重要度に
応じて項目を評価



ユーザーは自分の指標をソーシャルネットワークを通じて他の人々と、また OECD と共有することができる。これによって OECD は、ユーザーが様々な生活の側面に付す重要性、その重要性が国によってどのくらい違うか、またユーザーの人口上の性質に関して貴重な情報を集めることができる。

よりよい暮らし指標は、2011 年 5 月の公開以来、**184 に及ぶ世界中の国々から 460 万人以上**がアクセスしており、**800 万件のページビュー**を獲得している。そして 7 万 2000 人以上のユーザーが自分の指標を OECD と共有している。以下の各国についての結果には、この www.oecdbetterlifeindex.org を通じて自発的に共有された情報が反映している。結果はあくまで事実として示されたものであり、その国の人口全体を代表するものではない。

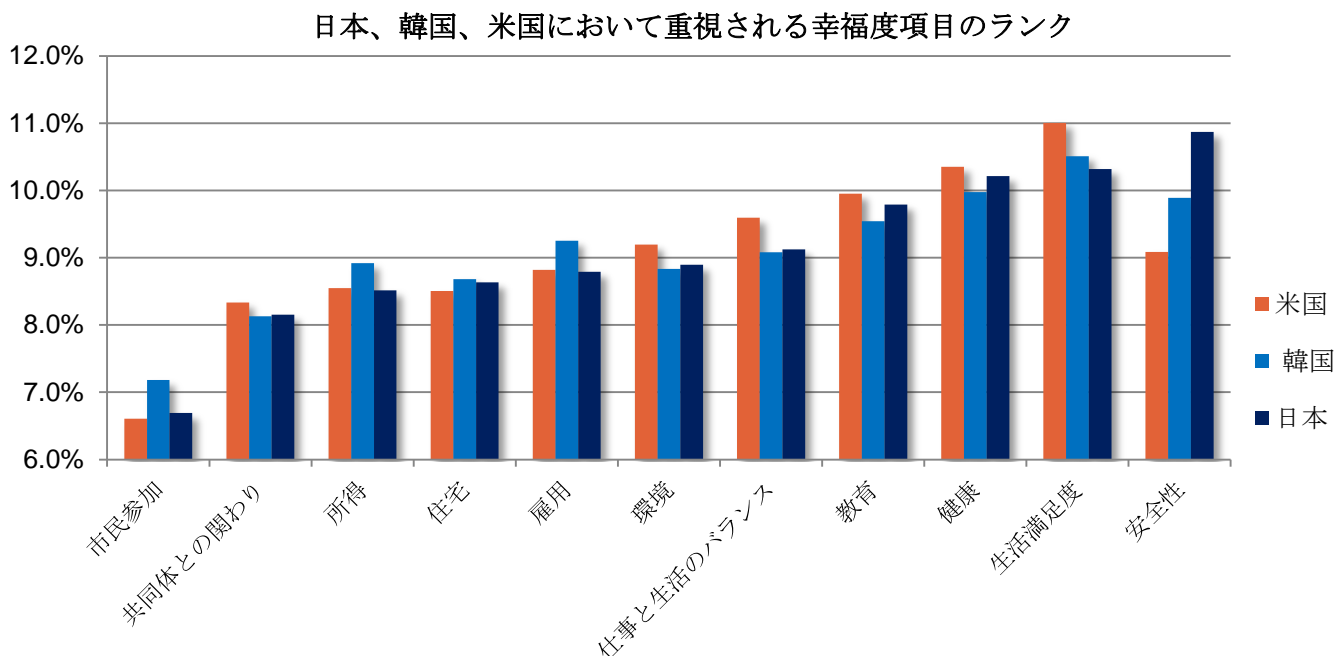
ユーザーが重視する幸福度項目のランク



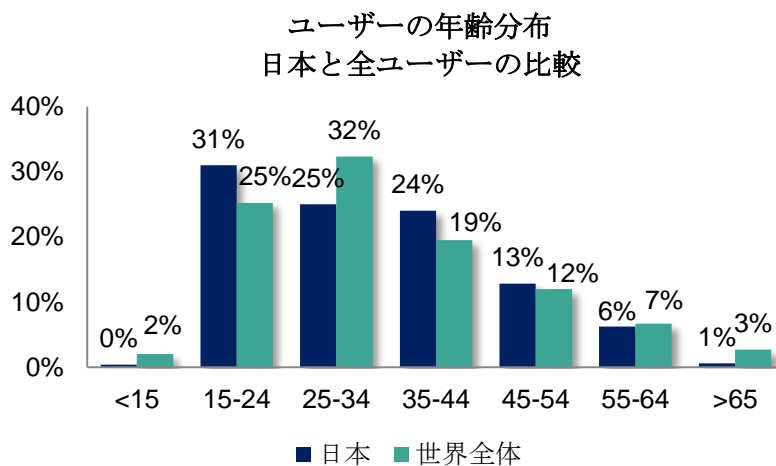
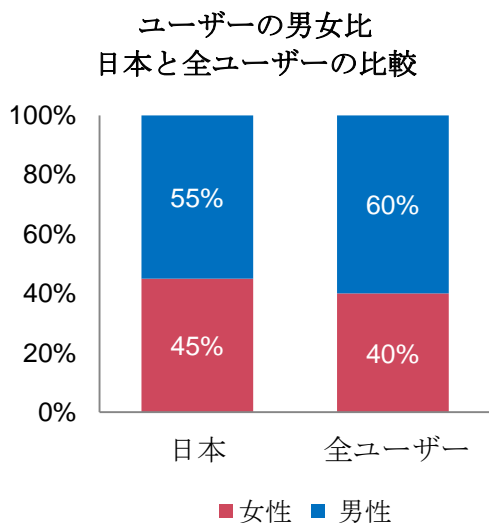
健康、生活満足度、教育は、総じて常に最重要と見なされている。

人々は幸福をどのようにとらえているか：日本について

安全性、生活満足度、健康は、日本で暮らすユーザーが最重要と見なしている上位 3 項目である。¹以下のグラフは、日本、韓国、米国のユーザーが共有した指標を比較したものである。



日本から BLI のサイトにアクセスされた件数は 88,000 件を超えており、現在 **12 位** である。アクセス件数が最も多い都市は東京で 42,000 件以上、続いて神奈川（7,000 件以上）と大阪（6,500 件以上）である。



¹ 2011 年 5 月から 2014 年 8 月までに提供された指標に基づいた、日本人が重視する項目。最新情報は以下のウェブサイトに掲載：<http://www.oecdbetterlifeindex.org/responses/#JPN>

メディア関係者のお問合せ先：
news.contact@oecd.org / Tel. +33145249700

詳細は以下のサイトをご参照ください。
bli@oecd.org

